



ベトナムの貴重な自然資源である森林の持続的管理に向けてワークショップを開催

2020年11月27日

国際協力機構（JICA）ベトナム事務所

国際協力機構（JICA）は、2020年11月27日、ハノイにて、技術協力「持続的自然資源管理（SNRM）プロジェクト」（2015年8月～2021年1月）の最終ワークショップを開催しました。農業農村開発省、天然資源環境省、地方政府代表など森林分野に関連するベトナム政府機関、国際機関、NGO、日本の民間企業などが参加し、プロジェクトの成果と経験を共有しました。

ベトナムの森林セクターはここ数十年の間、大きく変化してきました。戦後の復興資材供給のための過剰伐採、農地への転換などの影響で1990年には27%まで落ち込んでいた森林率は、2019年時点で42%まで回復しました。また、木製品の輸出額は年々伸びており、2005年時点では16億米ドルだったものが、2019年にはその約7倍の110億米ドルに達しています。しかしながら、主に人工林の造成により森林率が上昇する一方で、貴重な生態系を有する天然林は依然として減少傾向にあり、貴重な外貨獲得源となっている木製品についても、その原料の多くを輸入材に頼っているなどの現状にあります。

ベトナムの森林は、山岳地帯の少数民族の人々にとって、生計の糧を得るための貴重な天然資源ですが、近年、人々の森林に対するニーズは多様化してきています。気候変動の緩和、エコツーリズムの振興、水資源の涵養などに加え、昨今の度重なる台風・豪雨による土砂災害で多くの人命が失われたこともあり、フック首相からは今年11月の国会の場において森林の持つ防災機能の発揮が強調されたところです。

同プロジェクトでは、これらの課題・ニーズに対応しつつ、貴重な天然資源である森林を持続的に管理していくため、中央・地方政府関係者、地域住民、そして日本の民間企業等とも連携し、様々な取組みを進めてきました。中央政府においては主に森林法のレビューとドラフト作成、国家 REDD+action プログラム促進、生物多様性に関連するデータベースシステムの利活用などに対する支援を行いました。地方政府を対象とした支援では特に北西部4省（ソンラ、ホアビン、ディエンビエン、ライチャウ）において、省 REDD+行動計画の策定・実施、中部高原ラムドン省においては生物圏保護区における管理計画の策定・実施などに取り組みました。今回の最終ワークショップでは、それら成果の一部として以下の取組の紹介が行われました。

- 地域住民との協働による森林管理及び保全
- 最新技術を活用した効果的な森林モニタリング
- 日本の民間企業との連携による森林管理と生計向上の実現
- 気候変動対策としての森林管理及びそのための外部資金の活用

これらの取組みは、他の国際援助機関等が取り入れるなど拡がりを見せています。今回のワークショップを契機に更なる普及が図られ、国民の貴重な財産である森林の持続的管理の推進につながっていくことが期待されます。

照会先：

JICA ベトナム事務所

11th Floor, Corner Stone Building, 16 Phan Chu Trinh Street, Hoan Kiem, Hanoi, Viet Nam

Tel: (84-24) 3831 5005 (ext. 137)

高木 結実 (PR Officer)